

# シリーズ 市政の今

未来技術等を活用した心が通う持続可能なまちづくり

## ビヨンド・コロナ社会のデジタル技術を活用した新たな人・地域のつながりづくり

### 第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、コロナ禍で変わりゆく今後の地域活動についてお伝えします。



SDGs未来都市



▲屋外で実施した多門院歴史探訪ウォーキング（毘沙門堂）

#### コロナ禍での市民活動支援

これまで、各公民館や自治会、多様なサークルで活発に行われてきた健康体操や料理教室、地域の歴史を学ぶ「フィールドワーク」などのさまざまな市民活動は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛や施設利用制限などで多くの活動が制約を受け、中止・延期を余儀なくされてきました。

こうした中、公民館などで活動されている団体の発表の機会を提供するため、ロビー等できるだけ密にならない場所で、短時間だけの「ちょっとコンサート」や「ちょっとアート展」などを実施、地域活動の再開を支援してきました。

また、昨年は小学校と公民館をオンラインで結び、運動会をホールで生中継、直接応援に行けない地域の人も応援してもらおう試みを行ったほか、今春には各公民館にインターネット環境も整備し、オンライン会議や講座な

ど、さまざまな用途に活用できるようになりました。

さらに、緊急事態宣言解除後の11月には「まなびあむ」と舞鶴市老人クラブ連合会が連携し、多門院地区で「多門院歴史探訪ウォーキング」が開催され、地域の遺物を巡り、学びを深める活動が行われました。定員を超える約60人が参加し、コロナ禍での市民活動再開を心待ちにしていたことがうかがわれました。

#### スマホを用いた新たな活動

地域活動は再開したものの、コロナ禍を乗り越えるためには、新たな工夫が必要です。今年完成した「京都舞鶴まち探検マップ」もそのひとつです。コロナ禍で圏域を越えた移動が自粛となる中、密を避けて地域を学べるツールとして、学校や観光・歴史団体などでの出前講座で使われ、今後のさらなる活用が期待されています。

また、今年度から「公民館公式Instagram」を開設。各公民館で行わ

れている講座などの募集や活動の様子を積極的に発信しています。さらに、市公式ムービーチャンネルで「ちょっとコンサート」の様子を発信するなど、公民館で行われている活動の内容や魅力を発信することで「公民館って何をしているのか分からない」「気になっていたけど参加できなかった」という人にも広く知ってもらえるようになり、地域や世代の枠を越えて地域活動を紹介できるようになりました。

#### これからの地域づくり

コロナ禍は地域のつながりに一石を投じましたが、同時に新しい地域づくりの可能性も生まれました。SNSなどで、これまで知り合う機会のなかった人とも、共通の趣味などを通じて知り合いになれるなど、新しいつながり方も広がっています。

一方で、ICTが苦手な人には、従来のイベントを屋外開催や人数を分散させるなど感染リスクを減らす工夫をしての実施、また、デジタルツールの使い方を学ぶセミナーを開催するなど苦手意識をなくしていく取



▲運動会のオンライン配信（左右）

組みも必要です。

今後、多世代交流施設「まなびあむ」を拠点として、ICTを活用した遠隔地の講師によるセミナーの実施や自宅からの受講など、公共施設と利用者の新たなつながり方の検証やまなびあむ、小中学校と各地域の公民館などを結んだ遠隔配信の取り組みなどにより、これまでのつながりも大切にしながら持続可能な新しい地域づくりを支援していきます。



▲公民館公式 Instagram



▲ちょっとコンサートの動画

#### 公共施設は新しくチャレンジする場

「おかめと恵子」をはじめ「おかめ姉妹」「フォークグループ123」で歌っています。中でも「123」はフォークの原点を探っています。

「おかめと恵子」は6年前に音楽好きの友人と結成。二人のハーモニーやオカリナとギターの音色で「このコロナ禍に癒される」と感想をいただいております。最近中総合会館やまなびあむでも歌いました。まなびあむでの「ちょっとコンサート」は市の公式YouTubeでも投稿されましたが、普段は自分のアカウントで投稿しています。昔の教え子が撮影、投稿してくれていたのをきっかけに、今では撮影してくれた動画を自分で編集・投稿するようになりました。動画を見た人からは、激励をいただいたりライブの依頼を受けることもあります。これまで築いてきた人のつながりを大事に、新しいツールも活用しながらさまざまなことに取り組んでこれからも人生を楽しんでいきたいと思



フォークソングデュオ  
おかめと恵子  
阿部 美和子さん

#### デジタルを手軽で安全に使えるように

近年、DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が耳にします。これは、ICTで私たちの生活をより良い方向に変化させることを意味します。私たちは、これらの紹介と利用拡大のために、運動会などイベントのオンライン配信や、公民館でZoomの使い方セミナーを開催してきました。コロナ禍で、地域活性化活動でも福祉活動でもDXの重要性は高まっています。しかしまだ、これらに取り組む際はそれを専門とする人たちに協力を依頼しなければならないことが多く、それが課題でもあります。今後は、誰もが「手軽で安全に使えるツール」となるようにしなければなりません。そのためには、技術を簡素化することに加え、活用事例の紹介やICTに苦手意識のある人へのアプローチも大切です。私たちはこうした取り組みが、安全・安心で持続可能な地域づくりにつながると考えており、今後も活動を続けていきます。



※2021年に関連教室  
近畿職業能力開発大学校京都校 情報通信サービス科特任能開教授  
加畑 満久さん